

この度の東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された地域の皆さま、その家族の方々及び関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

## 「応援産直市」開催のご案内

J-PAO の運営会員である東日本旅客鉄道(株)が主催し、JR東日本グループが協力する「応援産直市」が5月3日(火)～5月7日(土)の5日間、上野駅、秋葉原駅、大宮駅の3駅にて、開催されます。

この取組みについては、J-PAO 会員である(社)日本農業法人協会、日本ブランド事業協同組合、日本GAP協会も協力し、実現したものです(詳細は、4/28にメールまたはFAX連絡)

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

## 総会・理事会の日程が決定

平成 23 年度第 1 回理事会・総会の開催日程・場所が決まりました。議案等の詳細は後日連絡します。

日程：平成 23 年 5 月 30 日 (月)

理事会：14:00～14:45

総会：14:45～16:00

場所：北とびあ(東京都北区)

また、総会終了後に、前年同様会員からの情報を発信する情報交換会を開催します(16:30頃終了予定)。

## 専門部会の動き(4月分)

### 【事業化支援・販売支援①】

前回までの案件については、これまでの取り組みをもって、一区切りとしました。

また、東日本大震災・福島第一原発事故を受け、参加メンバー各社の最新動向を中心に意見交換を行いました。

### 【事業化支援・販売支援②】

これまで検討してきました町への対応経過を再度確認するとともに、震災への対応という側面も踏まえ、何か提案できることはないかを検討しました。

そして、直接その町の人とお会いする機会があるので、そこで提案の方向性等を確認することにしました。

### 【J-PAO のビジネスモデル】

企画運営委員へのアンケート結果を報告。その上で、ビジネスモデルの具体例を持ち寄り、それを実現するために必要なことの検討を行いました。

そして、検討結果を次回の企画運営委員会で提示する予定です。

### 【人材育成①】

今年度の実施が決定した「農商工連携人材育成事業」に係る委員会を開催しました。申請からこれまでの経過等について説明を行ったうえで、受講者の選考基準や修了基準等について討議しました。

また、研修農場制度についても討議を行い、事務局が推薦した「NPO 法人阿蘇エコファーマーズセンター」を新たな J-PAO 研修農場として選定しました。

### 【人材育成②】

J-PAO 主催の研修会について検討しました。農業に関して一定のスキルアップを図る研修を J-PAO 主催でできないかどうかの検討を開始したものです。

今回は、研修について、自由に討議を行いました。

4月からの短期のプロジェクトとして、輸出プロジェクトが始まりました。

### 【輸出プロジェクト】

第1回目の開催である今回は、本プロジェクトの内容説明に続き、「中国における日本産米の販路開拓について」と題し、その価格(販売価格、卸売価格)や、中国での評価、関税、販路開拓について報告し、意見交換を行いました。

## 主な活動(3/8～5/2)

3/30 パソナグループ(農業ビジネススクール)(神崎)

4/12 第47回企画運営委員会

4/26 みずほコーポレート銀行(三金会首都圏プロジェクト分科会)(神崎)

4/27 りそな総合研究所(アグリビジネス研究会)(神崎)

連載 (第9回)

ビジネスとしての農業を考える

～現場からの農業レポート～

## 東日本大震災の影響

(筆者略歴)

青木理紗 (あおき・りさ)

(株)麦わら農場代表取締役。東京で経営コンサルタントの後、09年より農業生産を開始、法人設立。農業生産、加工、及び農業への企業参入のコンサルティングを実施中。

URL : <http://mugiwara.mooncafe.org/>

東日本大震災の影響はすごい。地震自体は畑で収穫していた私には大したことはなく、自然の雄大さを改めて感じたのであるが、私にとっての問題は人災の方である。

原発問題は本当に頭を抱える。私の農場は千葉県香取郡多古町というところにあり、先日ほうれん草から放射能が検出された。出荷停止、物が動かない・・・という話もあるが、それ以前に「そもそも商品の品質が大丈夫なのか？」ということが一番の悩みの種だ。

判断に苦しむ大きな原因は「ホウシャノウ」というものが良く分からないことだ。どこまで人体に影響があるのか、何故影響があるのか。

ホウシャノウを出すホウシャセイブツシツというものが危険で、更にホウシャセイブツシツがヨウ素とかセシウムとかプルトニウムと複数に渡り、説明を聞いても専門的すぎて理解しにくい。通常値のXXX倍と言われてもその数値の桁が大きすぎてよくわからない。2桁でも大丈夫というのは、元々の通常値=安全値ではない、安全値とは何か？というのが分からない。結局のところ、短期的なリスクは直ちに健康に害を及ぼすため事例があるが、長期的リスクはそんなことは歴史上起こっていないからよくわからない、つまり安全値がわからないというように聞こえる。

とても危険だが、どのくらい危険かわからないものをこんなにも当たり前に使っていたということに改めてショックを受けるが、それ以前に今現在直面している危機が気になる。

前に今現在直面している危機が気になる。

先日普段からお世話になっている栽培方法の研究者の方がいらっしや、環境の放射線の量を計測していただいた。屋内は通常値であるが、畑・ハウスは2倍程度だった。放射性物質が飛んできているのは間違いない。果たしてそれがどのぐらいの影響になるのだろうか？事故以来ずっと飛来し続け、生産の最も重要な環境の一つである土に蓄積されると考えると、経営、という期間での影響の排除は難しいのではないだろうか、という考えが頭をよぎる。

場所を移すということも考えなければいけないだろう。ただ、この人災を前にこうも無力であることが残念だ。放射能性物質を除くような効果があるものも探してみたい。

農家の役割とは消費者に良いもの、おいしく安全なものを提供する、ということだと私は思う。その役割を全うするという多くの個人の気概、そしてそれに費やした年月を、こうも簡単に壊してしまいかねない今回の事故は本当にやるせない気分になる。

私が一消費者であれば東日本産の食べ物を買わないだろう。外国人であれば日本産の食べ物を買わないだろう。農業の衰退が進み、振興が叫ばれていた時に、物理的に衰退を促進するような出来事に、本当に残念だ、としか言いようがない。

私は、日本は水と自然が豊かな国で、その環境資源を活用した新しい日本のあり方として農業が一つの柱となる可能性があるのではないかと考えてきた。ただ、今、どうしていけばいいのだろうと改めて考え直している。

放射能は生物の肥大効果があるらしい。チェルノブイリの周囲では巨大な生物の楽園になっているという話もある。想像を超えた適応力を持つ「自然」との共存、「環境」というキーワードの中に「農業」というものがやはり重要になってくるのではないかと、とも感じている。